

生涯でがんにかかると人は

2人に1人の時代になった





がん医療の発展は我々に  
大きな恩恵をもたらしたが、


同時に多くの課題を  
与え続けている。

---

目の前にいる患者さんを治したいと思う。

その希望を叶えたいと思う。

自分にもっと力があったら  
もっと仲間がいたら  
もっとチャンスがあったら

A woman with dark hair, wearing a white lab coat and white pants, stands on a balcony with a metal railing. She is looking out towards a modern building with large glass windows. The scene is brightly lit, suggesting daytime. A large, semi-transparent white circle is overlaid on the right side of the image, containing Japanese text.

だから

もっと学びたい

もっと成長したい

もっと自分の可能性を広げたい

そして、

がん医療に貢献したい

その熱い想いを胸に秘めたまま、日々を送りますか？



J-TOPにはその熱意に応える準備がある。



J-TOPの  
活動内容のご紹介

～経験者の言葉～

医師：下村 昭彦（J-TOP 日本側議長）

国立国際医療研究センター 乳腺・腫瘍内科  
(JME 2014生)

J-TOPは患者さん中心のチーム医療を実践するために必要なことを学ぶ組織です。医療者が教育を受けることは、患者さんに最も良い治療を届ける最短の方法です。

私はJ-TOPに参加する中で、チームの中でリーダーシップを発揮するためのスキル、チームへの参加を通して自身のキャリアを積み上げていくノウハウを学びました。

**J-TOPがなければ今の私はありません。**

J-TOPのメンバーは身につけたスキルを活かして、それぞれのフィールドの第一線で活躍しています。ぜひ多くの医療従事者にJ-TOPを経験していただき、目の前の患者さんに、そしてご自身のキャリアに活かして頂きたいと思っています。





～経験者の言葉～

看護師：大内 紗也子  
京都大学医学部附属病院  
(JME 2013生)

2012年に参加した 1st Leadership Academyは、

**私の人生を大きく変えました。**

キャリア・ディベロップメントについて学んだことは5年先、10年先の将来なんて考えず、ただ自分が生きたいように生きてきた私にとって新鮮でした。

自分自身のキャリアを考える体験を、是非がん医療に携わる皆さんにも体験してもらいたいと思っています。



## ～経験者の言葉～

薬剤師：橋本 浩伸  
国立がん研究センター中央病院 薬剤部  
(JME 2008生)

J-TOPに関わる事で米国研修、ファシリテーション研修など

### 多くの機会を頂きました。

国籍・職種を問わない関わりの中で人の優しさや誠実さに触れる事で、医療者としての考えを整理する事ができました。

J-TOPで最初に学んだ、Mission/Vision を考え仲間と共有し、定めた目標に到達するという姿勢はチーム医療の実践に非常に役立っております。

これは、10年を超える関わりの中のほんの一部ですがこれからのキャリアに役立つと信じています。



# Issue & Solution

課題と解決策

# もっと、 知識をつけたい 技術を磨きたい

- EBMを共通言語として医療上のコミュニケーションを構築するための学習を推進します。
  - Team Science Oncology Workshop
  - 地域に根ざしたチームオンコロジーセミナー
  - International Journal club
- World wide なネットワークを用いて最新で有益な情報を共有できるプラットフォーム事業を運営しています。
  - チームオンコロジー.com 掲示板
  - project ECHO

我々は他の専門職を respect する文化を醸成します



# もっと、 チーム医療のスキルが 必要だ

- MDアンダーソンがんセンター式リーダーシップ研修のエッセンスを用いたワークショップを行います。
  - Team Science Oncology Workshop
  - 地域に根ざしたチームオンコロジーセミナー
- MBTI®を用いた自己理解の推進事業を行います。
  - 自己理解・他者理解のための研修会  
～MBTI®を用いて～



チーム医療の概念を日本に持ち込んだ自負、  
17年にわたるチーム医療研修の実績  
そして、豊富な人材

# もっと、 仲間を増やしたい

- 全国のエキスパートが集まるワークショップを開催し、学びの時間を共有します。
- 各地域での最適解を目指したチーム医療の形を求め、より実践的な研修を行い理解を深めます。同時に医療者同士の絆を深めます。
- JME参加者とフレンズで形成される Tutor 陣は全国各地で活躍しています。





もっと、  
チャンスが欲しい

MDアンダーソンがんセンターへの短期留学は、  
知識/技術のアップデート、チーム医療の学び、  
ネットワーク構築のチャンスを飛躍的に伸ば  
すことができるプログラムです。

➤ Japan Medical Exchange Program

J-TOPは、がん医療に関わる医療従事者のための

「環太平洋で最高峰の Off-JT 教育機関」

を目指します。

# 主力事業（5+2の教育モデル）

MAIN CONTENTS (Plan 5+2)



# J-TOPは5+2の事業プランで 学びたい医療者の熱意に応えます

## 【Major Program】

- ① ワークショップ事業 (Team Science Oncology Workshop)
- ② オンコロジーセミナー事業 (地域に根ざしたオンコロジーセミナー)
- ③ 短期留学事業 (Japanese Medical Exchange Program)
- ④ ウェブサイト事業 (ホームページ掲示板)
- ⑤ 医療連携拡大事業 (project ECHO)

## 【Agile Program】

- ① MBTI®を用いた体験学習 (自己理解・他者理解のための研修会)
- ② EBMのためのトレーニング (International Journal Club)

現場を知っているから提供できる、  
医療者のための学びの場

---

# Major Program



聖マリアンナ医科大学病院  
乳腺・内分泌外科 教授 津川 浩一郎  
(JME 2004生)

## なぜ今、ワークショップ が必要なのか？

医療従事者は多忙です。しかしながら、それを理由に学びを止めてはいけません。

J-TOPのワークショップは、チームを動かすためのフレームワークを学び、グループディスカッションで試し、現場でそれが応用できるよう支援をしていきます。

またワークショップを通して得られる人脈は一生の宝となるでしょう。

高いスキルと広い人脈を身につけ、自身のキャリアに真摯に向き合う時間を是非体験してください。



元・国立がん研究センター看護師  
(現在都内大学講師)

佐藤 仁美

(JME 2008生)

## なぜ、各地域で オンコロジーセミナーが 必要なのか？

チーム医療は、都市部でのセミナーに参加できるお金や時間、モチベーションのある人、大規模な病院に勤務する人だけが実践するものなののでしょうか？

セミナーの機会が少ない地方にいる人、クリニックや小規模な病院に勤務する人にも実践が求められます。

だからこそ、各地域に即したオンコロジーセミナーが必要なのだと思います。



福島県立医科大学病院 副病院長  
腫瘍内科学講座 主任教授 佐治 重衡  
(JME 2003生)

## JME で得られたもの その先にあるもの…

MDアンダーソンがんセンターで過ごす5週間の Japanese Medical Exchange (JME) プログラムは、単なる学習や研修という意味を超え、自分のキャリアを考え直し、なにが自分のミッションであり、なにを今後すべきかを達観して見据えるという、

「人生の中で唯一の時間」

を提供してくれます。



横浜南共済病院薬剤科  
外来化学療法センター 主任 橋口 宏司  
(JME 2011生)

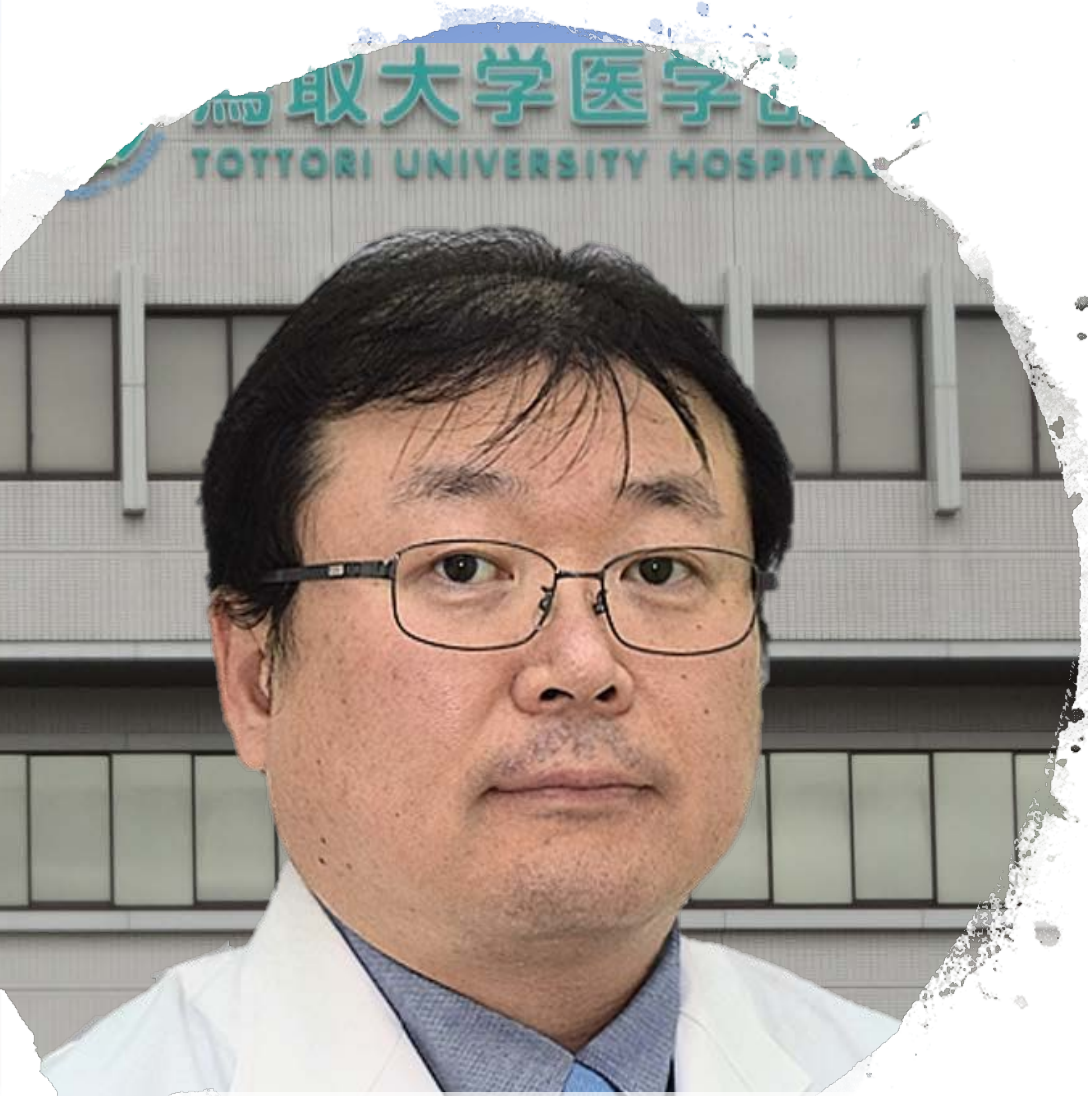
# ウェブサイトで紡ぐ信頼

TeamOncology.com では患者さんやそのご家族が利用できる掲示板を運営しています。

日々寄せられる治療選択や治療中の悩みなどに対し、がん治療のエキスパートであるJ-TOPの医師、看護師、薬剤師がお答えしています。

私達は、単に疑問点にお答えするだけでなく、掲示板に質問された方が**医療者と上手にコミュニケーションが取れるように支援していくことも心がけています。**

ご自身が医療チームの一員となり最良の治療を受けられるようになることが私達の使命であると感じています。



鳥取大学医学部附属病院  
腫瘍内科 診療科長 陶山 久司  
(JME 2015生)

## project ECHOにかける 熱き想い

がん医療において標準治療の均てん化が叫ばれていますが、実際の臨床では上手くいかないことは多々あります。

そんな時に世界的権威から直接助言していただける機会が“ECHO ONE”です。

私達は国内、米国はもちろん、台湾、フィリピンなどのアジア諸国とも繋がり、**がん診療の水準を飛躍的に向上させます。**

### 【project ECHO】

プロジェクトECHOは、MDアンダーソンがんセンターが、がん治療のより良い成果をあげることに併せ、地域格差をなくすために2016年から取り組んでいる重要な教育プログラムのひとつです。

J-TOPは、2019年1月にアジアの拠点に任命されました。



時代の変化を捉え、  
俊敏に事を興す

---

# Agile Program



# International Journal Club

International Journal Club は EBM のトレーニングのための革新的な抄読会です。

コミュニティ・ITを用い、MDアンダーソンがんセンターのスタッフとの双方向的なディスカッションが可能となりました。

国際的でハイレベルな学びの空間で、最新の学術論文の紹介を行い、参加者同士で自施設の現状や日米間の違いを議論して、明日へ活かします。

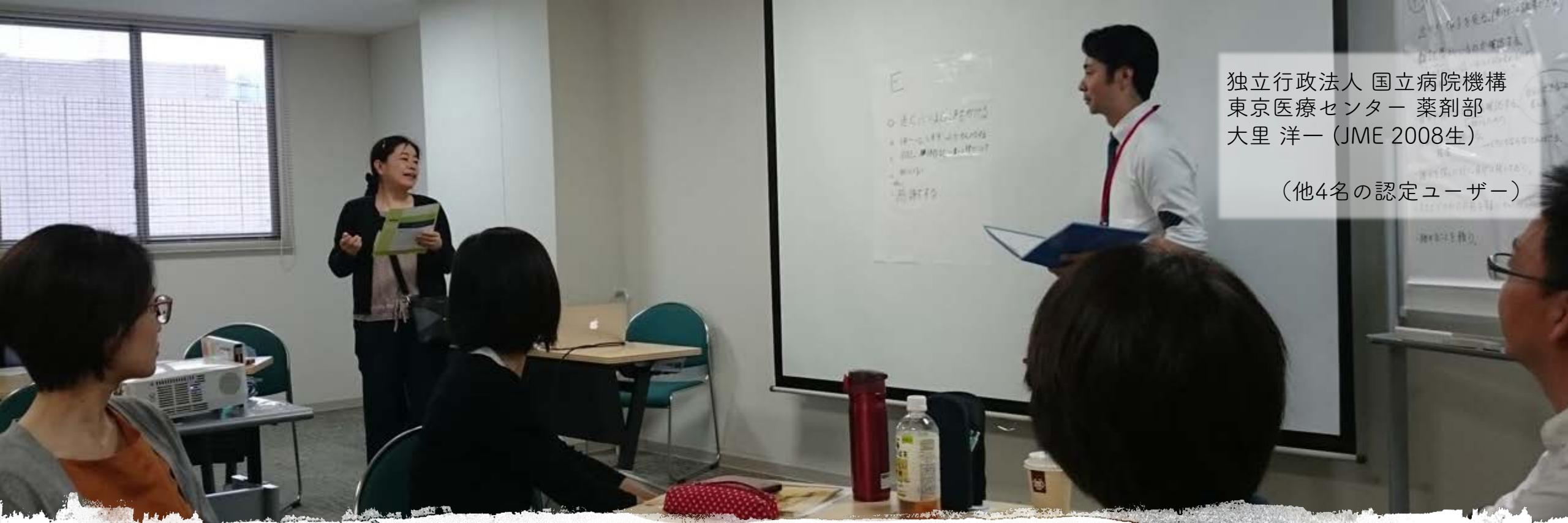


※実際のモニター画面

慶應義塾大学薬学部  
医療薬学部門 専任講師  
河添 仁  
(JME 2011生)

MD Anderson Cancer Center  
Pharm. D  
Jeffrey C. Bryan





独立行政法人 国立病院機構  
東京医療センター 薬剤部  
大里 洋一 (JME 2008生)

(他4名の認定ユーザー)

## 自己理解・他者理解 のための研修会 ～MBTI®を用いて～

世界で最も多く用いられている性格検査ツール  
「Myers-Briggs Type Indicator (MBTI)®」を用いて、  
コミュニケーションの真髄に迫ります。

J-TOPでは、日本MBTI協会にて認定を受けた「MBTI®  
認定ユーザー」がフィードバックを行い、自身の強みや  
改善ポイントを理解する研修会をご用意しています。



The 4<sup>th</sup> Team Science Oncology Workshop  
-via Zoom<sup>®</sup> & Newest technology-



**Professor Naoto Tada Ueno,  
M.D., Ph.D., F.A.C.P**  
Department of Breast Medical Oncology,  
Division of Cancer Medicine  
MD Anderson Cancer Center  
(J-TOP founder)

(c) Haruo Ogawa

チーム医療は仲良し医療ではない。  
個の力を束ね相乗効果を得るには  
チームに関する「技術」が必要だ。

## Why we create the Team Science Oncology Workshop?

チームサイエンスはチーム医療において必須の概念です。

なぜなら、私たちはどのようにしたらチームを最も生産的な状態に開発することができるか学ばなければならないからです。しかもそれが、愛着が持てエンジョイできる文化と共になければなりません。

成功するチームへ発展するには偶然に頼ってはいけません。そこには個々のメンバーに対しての、特別なスキルセット（技術）があるのです。チームサイエンスワークショップはあなたを良きチームメンバーにすると同時に「リーダー」となるためのスキルセットも提供します。

米国では、医療チームが次のレベル（ステージ）へ発展し患者ケアや科学の進歩に貢献できるよう、チームサイエンスの概念が多く施設で採用されているのです。

Team Science is needed because we need to learn how we can develop the most productive team with a culture that we can embrace and enjoy. Developing a successful team do not happen with a random chance. It takes a particular skill set for each participant of the team. The Team Science workshop provides the skill set that will take you to be a good team member as well as a team leader. In the USA, Team Science concept is carefully adopted with many institutions so that we can take the team to the next level that will help our patients and the advancement of the science.

そして、  
多くの米国 Mentor と  
共に学び、  
視野を拓ける。



Joyce L. Neumann  
PhD, APRN, AOCN, BMTCN  
Advanced Practice Nurse  
MD Anderson Cancer Center  
(J-TOP 米側議長)



# ゴール

科学的思考をもとにした優れた医療人および医療チームを育成することを目的に、参加者は下記の目的を達成する。

1. チームサイエンスの概念を通して効果的なチームを作る手法を体得する
2. 自身のキャリア形成のためにミッションとビジョンの創出方法を習得する
3. リーダーシップとコミュニケーションスキルを強化できる
4. EBM (Evidenced Based Medicine) の概念を応用できる

# J-TOP の Mission & Vision

## 【Mission】

リーダーシップおよびキャリア形成に関する最高品位の教育プログラムを提供し、患者中心のがんチーム医療を推進するオンコロジー・リーダーとしての能力、技能、行動力を育てます。

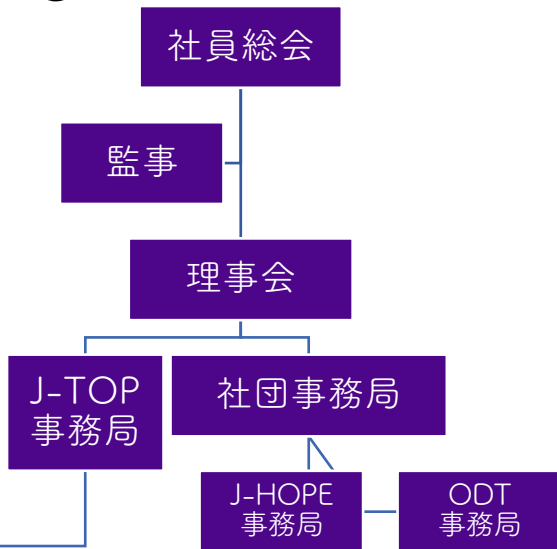
## 【Vision】

チームサイエンスの推進と社会に開かれたコミュニケーションを通じ、患者だけでなく非医療者、各分野のステークホルダーの参加するがんチーム医療を実現します。

# (社) オンコロジー教育推進プロジェクトの組織と Japan TeamOncology Program (J-TOP) 日米執行委員会

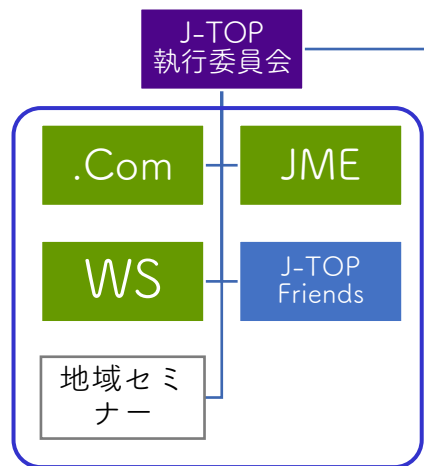
●理事会  
 理事長  
 専務理事  
 常務理事  
 常務理事  
 常務理事  
 理事  
 理事  
 理事  
 監事

福岡 正博 (和泉市立総合医療センター・総長)  
 津川 浩一郎 (聖マリアンナ医科大学)  
 上野 直人 (MDアンダーソンがんセンター)  
 朴 成和 (国立がん研究センター中央病院)  
 山本 信之 (和歌山県立医科大学)  
 奥山 裕美 (昭和大学薬学部)  
 佐治 重衡 (福島県立医科大学)  
 中村 清吾 (昭和大学医学部)  
 金谷 政徳 (公認会計士・税理士)



理事会にて事業と予算の承認

日米執行委員会にて  
プログラム企画を立案 →



## 日米執行委員会

テキサス大学MDアンダーソンがんセンター  
 Chair: Joyce L. Neumann, Advanced Practice Nurse  
 Jeffrey C. Bryan, Pharmacy Specialist  
 Theresa Johnson, Nurse Manager  
 Nicholas Szewczyk, Advanced Practice Nurse  
 Naoto T. Ueno, Medical Oncologist,

議長: 下村 昭彦	国立がん研究センター中央病院	医師・乳腺・腫瘍内科
大内 紗也子	京都大学医学部附属病院	看護師
大里 洋一	国立病院機構東京医療センター	薬剤師
古川 孝広	国立がん研究センター東病院	医師・乳腺腫瘍内科
小島 康幸	聖マリアンナ医科大学外科学	医師・乳腺内分泌外科
藤田 行代志	群馬県立がんセンター	薬剤師
松本 奈都美	聖マリアンナ医科大学附属研究所	薬剤師
三浦 裕司	虎の門病院	医師・臨床腫瘍科
向原 徹	国立がん研究センター東病院	医師・乳腺腫瘍内科



がん医療は益々変化していくだろう



未来でも進化し続ける  
自分でありたい

目の前の患者さんのために





一般社団法人

オンコロジー教育推進プロジェクト

ジャパン チームオンコロジー プログラム (J-TOP) 事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-6-12 AIOS虎ノ門12階

メッドコア・アソシエイツ株式会社内

ホームページ：<https://www.teamoncology.com>

